

(様式2)



G F P グローバル産地計画

輸 出 事 業 計 画

生産品目 **有機のさつま芋** 産地 **鹿児島県・宮崎県**



有 限 会 社 か ご し ま 有 機 生 産 組 合



かごしま有機生産組合

Kagoshima Organic Farmers Assoc.

有機農業と自然生態系に調和した生き方・暮らし方を広げたい。

「有機農業に取り組む生産者の輪を広げよう」と1984年、有機農産物の組合としてスタート。
今では、160名を超える生産者の団体となりました。



企業プロフィール

組合代表

大和田 世志人

所在地

鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町3646

生産農家

162戸

うちJAS有機認証済み102戸
認証済み圃場面積・・・約163ha
(2021年1月時点)

年間栽培品目

野菜約100品目
果樹(有機グレープフルーツ・有機ポンカンなど) 約20品目
有機米・有機黒米・雑穀・有機紅茶・緑茶など

人参 約350 t
じゃが芋 約200 t
さつまいも 約450 t、
大根 約15万本・・・他多数

事業開始

1984年(昭和59年)

年間事業高

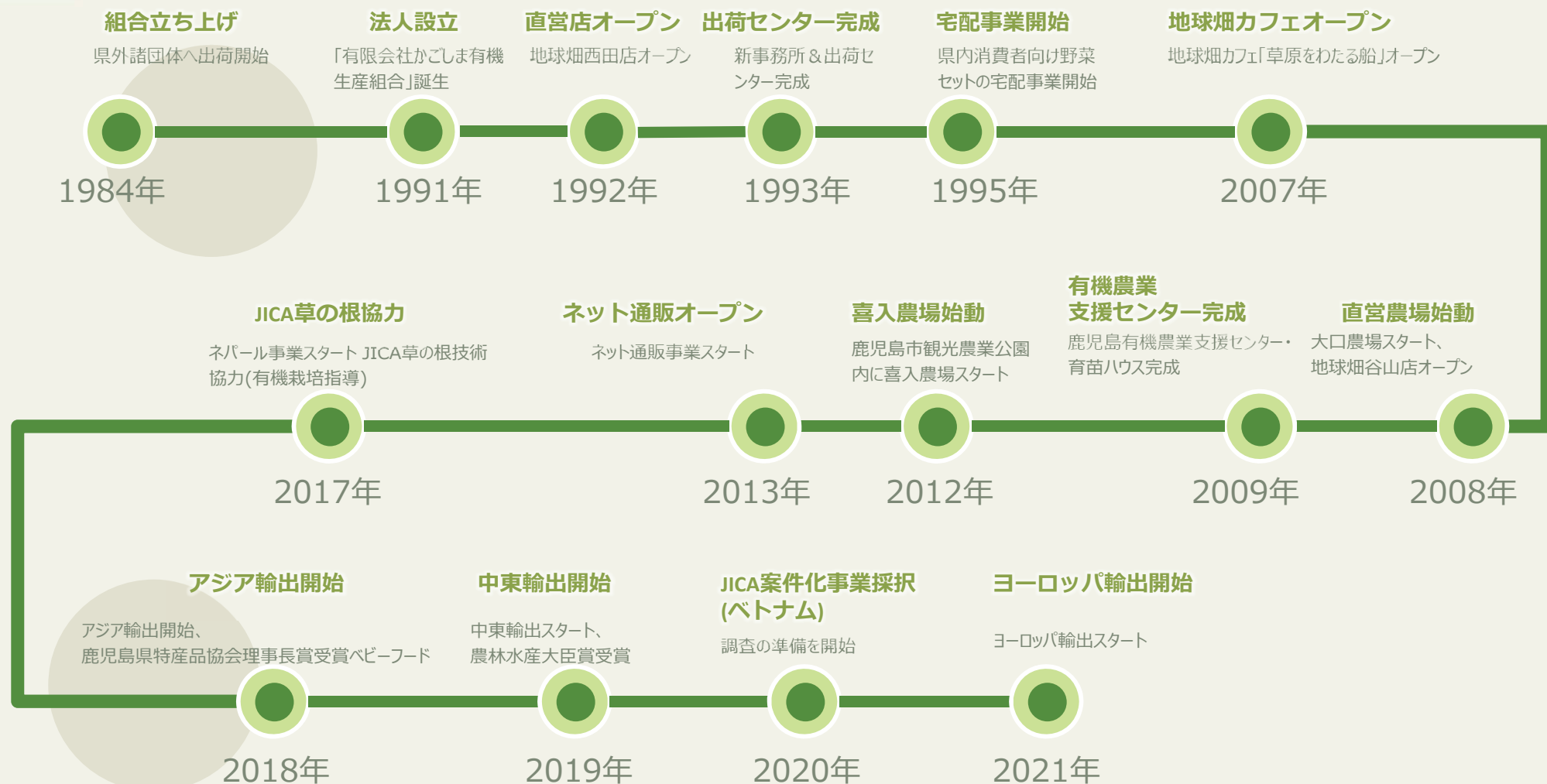
8億6千万円 (2021年9月時点)





沿革 設立後37年 これまでの歩み

Kagoshima Organic Farmers Assoc.





2021年のプレスリリース

Kagoshima Organic Farmers Assoc.

南種子町と有機農業を軸とした地域活性化に関する包括連携協定を締結。

有限会社かごしま有機生産組合は、2021年12月20日に、南種子町と有機農業を軸とした地域活性化に関する包括連携協定を締結しました。

「有機農業の普及を図るとともに、荒廃農地の復旧や新規就農者の確保を通じて地域の活性化を図ること」及び「有機農業で持続可能なまちづくりを目指すこと」を目的とします。



連携事項

1. 有機農業の普及に関すること。
2. 有機農業に係る技術支援・人材育成に関すること。
3. 有機農業を軸とした魅力あるまちづくりに関すること。
4. 荒廃農地の普及や新規就農者の確保に関すること。
5. 地域自給ネットワークづくりに関すること。
6. その他、持続可能な町づくり、食と農とくらしを守るために必要な事項に関すること。



輸出事業計画 目次

1. 輸出における現状と課題

当組合の輸出品目は、「さつまいも・さつまいも加工品を始めとした有機農産物、有機加工食品」である。

2. 輸出事業計画の取組内容

課題と取組内容（輸出の拡大を図るため、生産、製造、加工又は流通の改善を図る取組）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのP D C A 実施体制

事業の組織体系図及び連携体制図

4. 輸出目標額

輸出する農林水産物・食品の現状及び目標(輸出品目はさつまいも)



1. 輸出における現状と課題

【 現 状 】

当組合の輸出品目は、「さつまいも・さつまいも加工品を始めとした有機農産物、有機加工食品」である。

鹿児島県では平成30年3月に「農林水産物輸出促進ビジョン」を策定した。国内の食市場等が減少していく中、本県の基幹産業である農林水産業を維持・発展させるため、グローバル市場への更なる輸出拡大に向けた指針であり、2016年から2025年までに輸出目標額倍増の約300億円を目指す「攻め」の農林水産業の実現を掲げている。なお、同ビジョンでは「さつまいも」を重点品目に位置づけ、世界に通用する認証制度の取得促進や海外のニーズに対応した商品づくりを推進することとしている。

国内市場だけでなく海外にも販路拡大を進めることで、組合員である生産農家の手取り収入を少しでも増やし農業経営の採算性を良くし、生産農家が持続的に農業を続けられる環境を作り出すことを目指している。

海外市場ではオーガニックに対する理解が進んでおり、オーガニックの市場・流通量が非常に大きいため、海外へ販路拡大をしていきたいと考えている。また、日本国内だけでなく海外の隅々にまで日本産の有機野菜を使った加工品を広めていくというビジョンを持っている。

2018年9月、海外バイヤーが集まる商談会に初めて出展。当初、海外販売はEC（電子商取引）事業の延長として、越境ECを活用した現地消費者への直接輸出を考えていたが販売拡大に繋がらなかったため、海外バイヤーへ商品を売り込むべく、展示会へ出展することとした。

出展した結果、多くのバイヤーから日本の有機野菜や有機野菜の加工品を求める声があった。海外向け商品パンフレット（英語）を急いで作成し、さらにメールで連絡をとってオンライン会議で販促をかけ、少しずつ輸出できるようになった。現在、アジアや中東、ヨーロッパの9カ国へ輸出をしており、有機野菜で約40品目、有機野菜の加工品で約15種類ほど実績を上げている。輸出先国としては、香港、タイ、台湾の輸出が増えてきている。



1. 輸出における現状と課題

【 課 題 】

【 生産・製造 】

- ・有機農産物の生産量が不足しており、海外からのオーダーに応えられない。
- ・昨今蔓延しているさつまいも基腐病により、収量が落ち込んでいる。

【 流 通 】

- ・さつまいもの貯蔵中及び輸送中、輸送後の腐敗によるロス、クレームが発生している。また、さつまいもの基本的な収穫時期は8～11月のみなので、キュアリングを行わない場合、貯蔵中の腐敗等により、通年の供給ができないという課題がある。

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により飛行機・船の減便が続いており、コンテナ不足や港湾混雑が発生。コンテナ運賃・輸送費の高騰と合わせて輸出入における遅延・抜港が続いている。輸送機会の確保が困難になったことから、輸出先国の現地バイヤーとの価格等交渉において難しい状況。現地バイヤーからは、「当社商品を取り扱いたいが高騰している輸送費を考えると、どうやっても価格が合わない」という声があがっている。

【 販 売 】

- ・中国において、当社の屋号「地球畑（chikyubatake）」が英名で商標を先んじて取得された。今後、中華圏(香港・台湾)への輸出にあたっては、商標権侵害への注意と対策が必要。
- ・新型コロナウイルス感染拡大が続き、渡航が叶わない。少なくとも隔離期間が日本と輸出先国ともに短くならないままでは、現地に直接赴いての商談は困難。他方、オンライン商談だけでは成約に至るまでに限界を感じている。



2. 輸出事業計画の取組内容

【 取 組 内 容 】

【生産・製造】

- ・鹿児島県、宮崎県において有機農業の普及に取り組み、有機生産者数を増やす。また、既存の有機生産者の生産量を増やすため、勉強会や有機農業フォーラムを検討する。〈各国共通〉
- ・さつまいも基腐病に対しては、無菌苗、新規圃場の確保等で収量落ち込みを防ぐ。〈各国共通〉
- ・さつまいもをキュアリングして輸出することで、腐敗によるロス、クレームを軽減できる可能性が高いため、キュアリングの外部委託またはキュアリング設備の導入を行う。〈各国共通〉

【流 通】

- ・コロナ禍での物流コスト(船運賃、航空運賃、サーチャージ)が高騰しており、現地バイヤーからは輸送費を考慮すると価格が合わないと言われており、商品は良くても受注直前、あるいは数回輸出した後に継続取引を断られる等している。当社(荷主)としてはコンテナや輸送スペース確保に直接的には関与しないため、連携する輸出事業者に対してSHIP&AIR制度を活用した沖縄経由の輸送を勧めるほか、越境EC等を活用して消費者との直接取引を増やす等して、輸送コスト・中間コストの削減をはかる。〈各国共通〉
- ・台湾向けについては、2021年夏秋期にキュアリング、鮮度保持袋での梱包、芋洗いの手法改善、船の輸送温度帯改善を行い、クレームは発生しなかったところ。しかし、2021年度は気温が比較的低くない時期の処理であったため、対策効果については明確でない部分が残っている。また、他国向け輸送ルートについても、キュアリングすることにより腐敗ロス等が軽減されるのか検証を行う必要があるため、引き続き上述のロス・クレーム対策を実施する。
- ・シンガポール向けについては、コロナ禍での物流コスト(船運賃、航空運賃、サーチャージ)が高騰しており、かつ現地まで船便の遅延が発生しているため、エアー便で提案できる重さの軽い商品を提案していく。



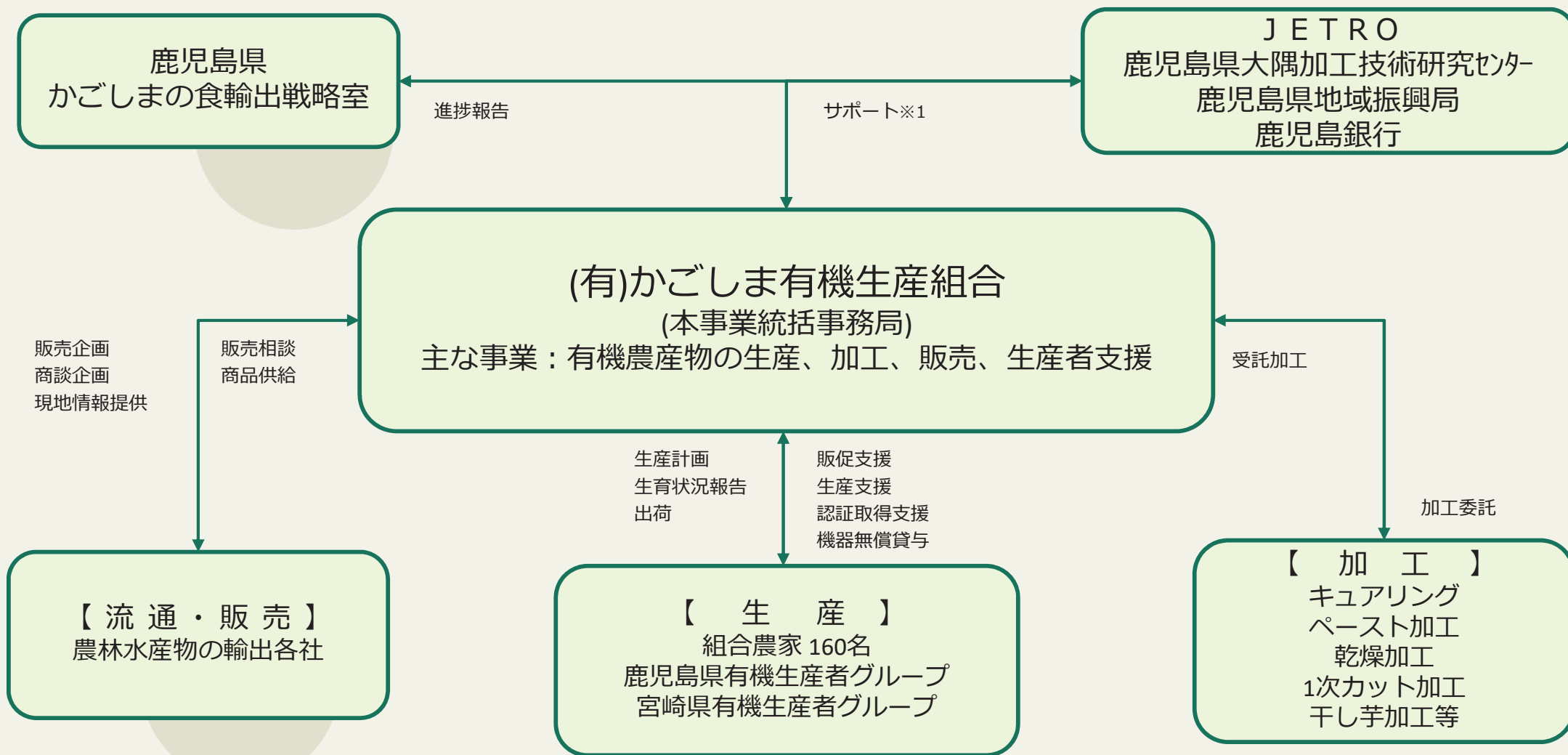
【販 売】

- ・香港と台湾における商標について、当社の屋号「地球畑」を英名で、かつ分類指定で商標申請手続きを行い、商標権の申請・取得を行う。これにより将来的な商標侵害のリスクを排除し、自社ブランドの継続的な輸出を可能とすることで、更なる輸出拡大を図る。
- ・台湾については、本県の地理的優位性やオーガニック市場の高まりをふまえ、BtoC向け越境ECサイトを構築し、消費者が求めているニーズ調査を実施する。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響をふまえ、オンライン商談および代理人による現地商談会への出展等を円滑に行うべく、自社商品の商談用資料（パンフレット等）や、日本語・英語・台湾語でのPOP、PR動画等の作成を行う。また、各国毎に対応すべきニーズをまとめ、それを自社内で情報共有し知識財産として蓄積する。〈各国共通〉
- ・商品の価値を高めるためのPR材料（写真等）を増やすことや、情報交換ツールを統一し、社内D Xの推進を行う。〈各国共通〉

ステップ別業務目標		令和4年度										令和5年度				令和6年度	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	上期	下期	
輸出事業計画のロードマップ 全体(リアル主体とオンライン利用のスキーム)		マスタプランA															
01.	鹿児島県、宮崎県において有機農業の普及に取り組み																
02.	既存の有機生産者と勉強会やスマート農業の導入を実施する。																
02.01	宮崎県現地視察・意見交換																
02.02	種子島現地視察・意見交換																
03.	さつまいも基腐病に対して、無菌苗、新規圃場の確保を実施する。																
04.	さつまいものキュアリング(外部委託)を実施する。																
05.	連携する輸出事業者に対してSHIP&AIR制度を活用した沖縄経由の輸送を実施する。																
06.	越境EC等を活用したプロモーション活動を実施する。																
07.	台湾については、キュアリングすることにより腐敗ロス等が軽減されるのか検証を実施する。																
08.	エアー便で提案できる重さの軽い商品を提案を実施する。																
09.	「地球畑」「CHIKYUBATAKE」の商標取得を実施する。																
09.01	香港で商標取得を実施する。																
09.02	台湾で商標取得を実施する。																
09.03	中国で商標取得を実施する。																
10.	BtoC向け越境ECサイトを構築し、消費者が求めているニーズ調査を実施する。																
11.	自社商品の商談用資料(パンフレット等)や、日本語・英語・台湾語でのPOP、PR動画等の作成を実施する。																



3.輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



※1 JETROからのサポートとして、海外ビジネスに精通した専門家による、継続的な企業訪問・海外出張同行等を通じた、海外販路開拓のサポート等を受ける。



4. 輸出目標額

Kagoshima Organic Farmers Assoc.

(輸出品目：さつまいも)

		現状 (令和2年度)	目標年 (令和6年度)
鹿児島地区	輸出額(千円)	3,400	16,000
	輸出量(t)	9	40
	輸出先国	香港、シンガポール、 タイ、台湾	香港、シンガポール、 タイ、台湾
	生産量(t)	117	160
宮崎地区	輸出額(千円)	1,172	2,000
	輸出量(t)	3	5
	輸出先国	香港、シンガポール、 タイ、台湾	香港、シンガポール、 タイ、台湾
	生産量(t)	33	42



「わたしたちの志」

Kagoshima Organic Farmers Assoc.

オーガニックで未来をつなぐ

あまねく生命が共存・調和する、かけがえのない地球を
未来へつないでいきます。

つくる人、つなぐ人、食べる人がその恵みをわかちあい、
いきいきと暮らせる社会をめざします。

有限会社 かごしま有機生産組合

1 貧困を
なくそう



2 飢餓を
ゼロに



3 すべての人に
健康と福祉を



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナリシップで
目標を達成しよう

